

西部：約6km
東部：約11.5km



岩屋山古墳横穴式石室

飛鳥地域の古墳（西部・東部）

みどころ 西部

明日香村から高取町にかけては、飛鳥時代の古墳（終末期古墳）が多数残されています。本コースはその西半部をめぐるります。

- ① **梅山古墳（欽明天皇陵古墳）** ② **猿石**

梅山古墳（欽明天皇陵古墳・前方後円墳・墳長138m）は、後円部径約73mに対し、前方部幅約107mを測るように、前方部の発達した古墳時代後期の古墳です。現在みる周濠は、江戸時代末に改修を受けたものですが、丘陵裾を取り囲むように築堤されたものとして、優美な姿をみせています。古墳の南西には吉備姫墓伝承地とされる円墳があり、周囲に猿石が配されています。この猿石は、もとは梅山古墳の南の水田にあったもので、1702年に再発掘され、梅山古墳に置かれていたものです。梅山古墳の陵墓指定に伴い、現在の位置に移されました。

- ③ **岩屋山古墳**

国道を飛鳥駅方面に戻ると、「飛鳥駅」バス停付近の高取川にかかる「豊年橋」を渡り、さらに駅北側の踏切を渡り道なりに歩くとすぐ岩屋山古墳の入口が見つかります。岩屋山古墳（方墳・一辺約40～45m・国の史跡）は、西から延びる丘陵の先端に築かれた古墳です。墳丘が大きく改変されているために、本来の姿は推定となりますが、2段築成の方墳とする説と、上段は多角形とする説があります。花崗岩切石で築造された長大な横穴式石室が、南に開口しています。石室の全長は17.8m、玄室の高さは3mを測ります。切り石の積み方の規則性と優美さから、「岩屋山式」として横穴式石室の形態上で、標識的な石室のひとつとされています。7世紀前半頃の築造と考えられています。

- ④ **牽牛子塚古墳**

西へ進路をとり、民家の中を抜け、「カフェことだま」の辻を右に曲がり、老人ホームを通り越して道なりに進めば、牽牛子塚古墳があります。牽牛子塚古墳（八角形墳・対角距離約18.5m・国の史跡）は、丘陵頂部を東にやや下った場所に築かれた飛鳥時代の古墳です。埋葬施設は横口式石槨とよばれるもので、巨大な凝灰岩を用いて、左右に棺を納める長方形の部屋を二つ割りぬいたものです。部屋への入口は四角く、各部屋の床には棺を載せるための台が削りだされています。入口全体を閉じるために、石槨の前に四角い切り石を並べています。その一部が、倒れた状態で見ることができ、調査では、漆棺の破片とそれに取り付けられていた様々な飾り金具が出土しており、橿原考古学研究所附属博物館でみることができます。

- ⑤ **真弓籬子塚古墳**

道なりに進み、案内板に従い左に2回まがり1回右に曲がると、真弓籬子塚古墳です。真弓籬子塚古墳（円墳・径23m）は、丘陵に囲まれた古墳です。長さ15m以上を測る巨大な横穴式石室が存在しています。巨石をドーム状に積み上げた玄室は圧巻です。また玄室の南北に羨道がとりつく特異なものとなっていますが、北の羨道については奥室とみる考えもあります。金銅製の飾り金具などが出土しており、6世紀後半の築造と考えられます。なお、墳丘は民有地で立ち入りできませんが、墳丘の裾から古墳を眺めることができます。

- ⑥ **マルコ山古墳**

元来た道に戻るとすぐの三叉路を、牽牛子塚古墳へ向わずにまっすぐ南東へ100mほど進めば、やがて2車線道路との交差点に出ますがそのまままっすぐ細い道を進みます。お地藏さんのある交差点を右に進路をとると、三叉路に至るので右の細いコンクリート道を進みます。神社付近を右に西進し、坂を登ってゆくと地の窪の集落の入口にマルコ山古墳があります。マルコ山古墳（六角形・対角長24m・国の史跡）は、飛鳥時代末期の古墳です。凝灰岩の切石で築いた横口式石槨は、高松塚古墳に類似したものです。その内面にはやはり漆喰が塗られていましたが、壁画は描かれていませんでした。棺は板の表面に布を漆で塗り固めて仕上げたものであり、金銅製の飾り金具が取り付けられていました。墳丘裾には小石が敷かれており、その下には暗渠排水溝が隠されていました。

みどころ 東部

明日香村から高取町にかけては、飛鳥時代の古墳（終末期古墳）が多数残されています。本コースはその東半部をめぐるります。6世紀から8世紀初頭までの、王族と豪族の奥津城を訪ねる旅です。

- ① **丸山古墳**

丸山古墳（前方後円墳・墳長300m・国の史跡）は、後期古墳としては最大の規模を誇る古墳です。後円部の中心部だけが陵墓参考地となっていますが、そこには列島最大の横穴式石室が内蔵されています。玄室には二つの割板式家形石棺が安置されていることが、宮内庁によって確認されています。考古学上では、本当の欽明天皇陵ではないかという説があります。

- ② **梅山古墳（欽明天皇陵古墳）**

みどころ（西部）の①と同様です。

- ③ **金塚古墳**

金塚古墳（方墳・一辺約50m）は、梅山古墳の東に並んで造られた古墳です。墳丘と石室は既に破壊されていますが、長大な切り石を用いた石室であったことが記録されています。墳丘を築くにあたって、背後の丘陵を南に開く「コ」字形に成形していたことは、現在も地形に残っています。宮内庁の管理地で立ち入りは禁止です。解説板はありません。

- ④ **鬼の俎板・雪隠**

鬼の俎板・雪隠は、横口式石槨とよばれる古墳の埋葬施設です。鬼の俎板が底石で、それに鬼の雪隠を逆さにしてのせると、横から棺を入れる石の部屋に復元できます。石の部屋は、奥行き2.5m・幅1.5m・高さ1.3mで、横口式石槨としては極めて大きなものです。墳丘は早くに失われており、残念ながら本来の形状はわかりません。

- ⑤ **天武・持統天皇合葬陵**

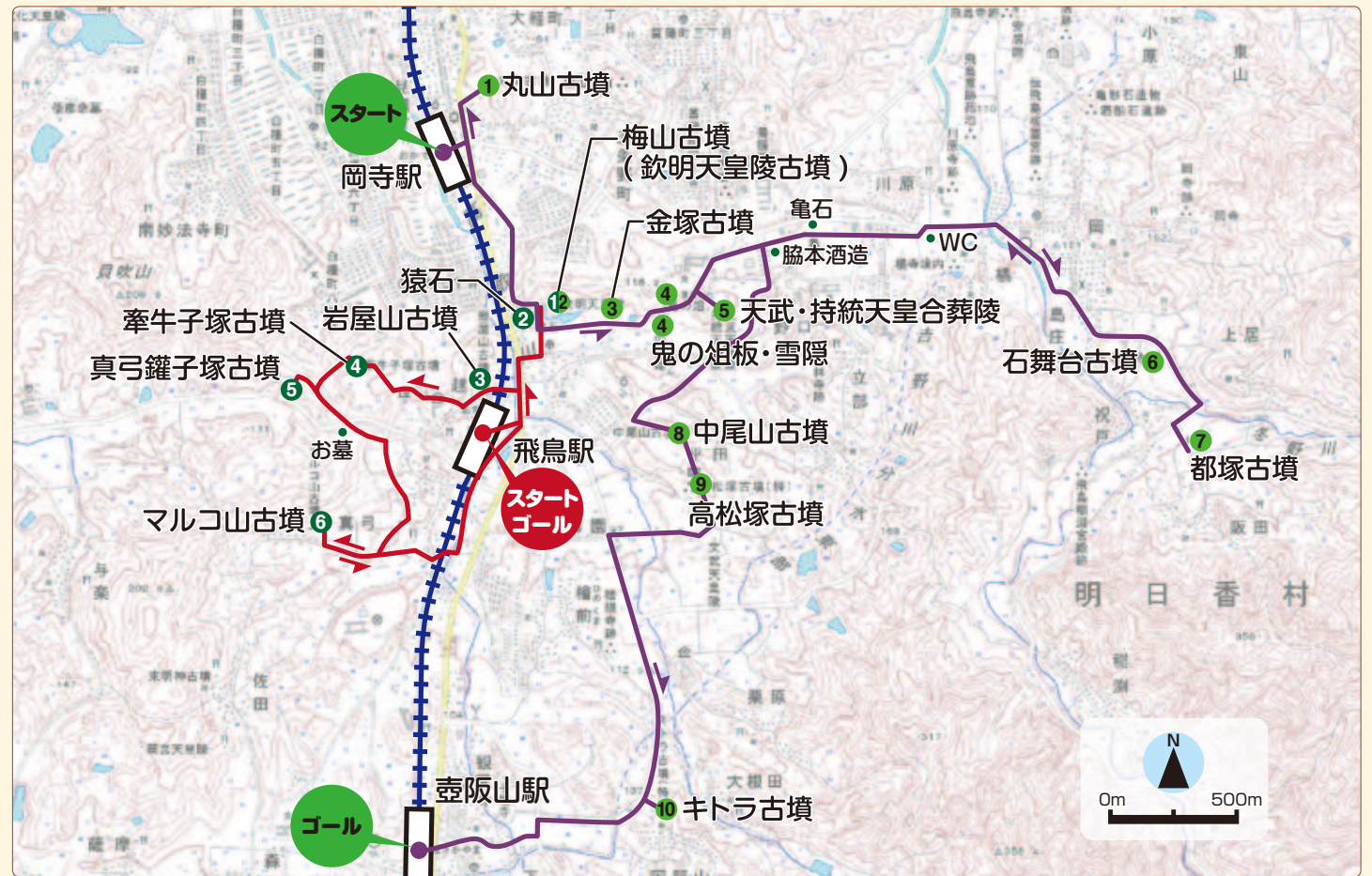
天武・持統天皇合葬陵（八角形・約13m）は、梅山古墳を西端とする古墳群の東端に築かれています。鎌倉時代（1235年）に盗掘があり、京都の高山寺にはそのときのことを記録した『阿不幾乃山陵記（あおきのさんりょうき）』が伝えられています。そこに記録された石槨の様子と日本書紀の記録がおよそ一致することから、天武・持統天皇合葬陵であると断定されています。被葬者の特定できる古墳として、極めてまれな古墳です。墳丘は八角形で、凝灰岩の切り石で覆われています。

- ⑥ **石舞台古墳**

石舞台古墳（方墳・一辺50m・特別史跡）は、2段築成の古墳と思われませんが、上部の墳丘は早くに失われて、巨大な横穴式石室の天井石が露出しています。周囲には外堤がめぐり、墳丘との間は幅8.4mの周濠となっています。墳丘と外堤の斜面には、丁寧に石が貼られています。南に開口する横穴式石室は、全長約19m・玄室長7.5m・同高さ4.7mを測る巨大なものです。床に排水溝が造られた玄室からは、凝灰岩片が多数確認されており、石棺があったことを物語っています。出土遺物から、7世紀前葉の古墳と推定されています。蘇我馬子の桃園墓とみる説があります。

- ⑦ **都塚古墳**

都塚古墳（円墳・径30m？方墳・一辺28m）は、墳丘が変形しており、墳丘形態は判然としないながらも、長大な横穴式石室をみることもできる古墳です。石室は全長12.1m・玄室長5.2m・同高3.5mを測ります。玄室には割板式家形石棺が安置されています。また玄室の床には砂利が敷き詰められており、その下には排水溝が造られています。出土遺物から、6世紀末頃に築造されたと推定されています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平21業複、第425号）

コース 西部

- | | |
|---------|-----------|
| 近鉄飛鳥駅 | ④ 牽牛子塚古墳 |
| ▼7分 | ▼7分 |
| ① 梅山古墳 | ⑤ 真弓籬子塚古墳 |
| ▼すぐ | ▼18分 |
| ② 猿石 | ⑥ マルコ山古墳 |
| ▼8分 | ▼20分 |
| ③ 岩屋山古墳 | 近鉄飛鳥駅 |
| ▼12分 | |

コース 東部

- | | |
|--------------|---------|
| 近鉄岡寺駅 | ⑥ 石舞台古墳 |
| ▼7分 | ▼9分 |
| ① 丸山古墳 | ⑦ 都塚古墳 |
| ▼20分 | ▼55分 |
| ② 梅山古墳 | ⑧ 中尾山古墳 |
| ▼8分 | ▼6分 |
| ③ 金塚古墳 | ⑨ 高松塚古墳 |
| ▼4分 | ▼25分 |
| ④ 鬼の俎板・雪隠 | ⑩ キトラ古墳 |
| ▼4分 | ▼16分 |
| ⑤ 天武・持統天皇合葬陵 | 近鉄壺阪山駅 |
| ▼35分 | |

平城遷都
1300年祭



- ⑧ **中尾山古墳**

元来た道を、ずっと戻り、亀石を通り過ぎて、造り酒屋の脇本酒造の角を右に曲がり、案内板に従うと中尾山古墳に至ります。中尾山古墳（八角形墳・径約18m・国の史跡）は、高松塚古墳の北の尾根上にあります。墳丘は3段に築かれており、周囲には石敷きが広がっています。墳丘には、6石を組み合わせて作った石槨が内蔵されており、その内法は約90cm四方を測ります。8世紀初頭の古墳として、文武天皇陵とする意見がだされています。

- ⑨ **高松塚古墳**

高松塚古墳（円墳？八角形墳？・径23m・特別史跡）は、2段に築成された古墳ですが、後世の削平によって、正確な墳丘形態は不明です。凝灰岩の切り石で組まれた横口式石槨を内蔵し、漆喰が塗られたその壁面には、人物像とともに玄武・白虎・青龍・天文図が描かれています。出土遺物には海獣葡萄鏡・金銅製の棺金具等があり、8世紀初頭頃の築造と考えられています。石槨は解体され、現在は修理施設に移設されています。

- ⑩ **キトラ古墳**

文武天皇陵へ進み、進路を西にとり坂を下りきったところにタバコ店のある交差点があるので、左に曲がり、2車線道路をしばらく南へと坂を登り、案内板に従うとキトラ古墳へと至ります。キトラ古墳（円墳・径約14m・特別史跡）は、2段に築成された古墳です。凝灰岩の切り石で組まれた横口式石槨を内蔵し、漆喰が塗られたその壁面には、青龍・白虎・朱雀・玄武・天文図・十二支像が描かれています。壁画はその状態から、現地での保存をあきらめ、剥ぎ取り作業が継続しておこなわれています。帰路は、2車線道路を高松塚古墳と逆の方向へ進みます。やがて三叉路に突きあたりますので、左にまがりすぐ右に曲がります。高取城の城下町である土佐街道を通り越すと壺阪山駅に至ります。

注 十分に休憩を取りながら、散策ください。石室内の観察に、懐中電灯などがあれば便利です。寺社等の見学に際し拝観料などの料金が必要な場合があります。紹介したコースには私有地なども含まれます。マナーを守って見学しましょう。